（平成３０年３月１９日）　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成29年８月末	平成29年11月末	平成30年２月末見通し	平成30年５月末見通し
－１７千トン ［　２２３６〃　］ （９９．２%）	－５９千トン ［　２１７７〃　］ （９７．４%）	＋４３千トン ［　２２２０〃　］ （１０２．０%）	＋１０千トン ［　２２３０　〃　］ （１００．５%）
２２７６千ﾄﾝ（101.8）	２１６９千ﾄﾝ（99.6）	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成29年９月末	平成29年１２月末	平成30年３月末見通し	平成30年６月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 78,900 円で前年比＋8,100 円、前期比では＋1,000 円。価格上昇、需要漸増の基調が期末になって明らかになった。問題は値上げ転嫁未達が解消せず、更なる値上げ攻勢に晒される状況にあったことだった。それは粗利の低下を招き中身のない商売を強いられることでもある。これまで採算は水面上にあったが、沈下する懸念も孕み秋口を迎えていた。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 82,200 円で前年比＋10,200 円、前期比では＋3,300 円。様変わりの市場動向となった。継続するメーカー値上げにより市況が動き出し、需要も製造、建設とも堅調であった。需給はタイト化し、鋼板、形鋼、コラムなどが品薄となり、歯抜けサイズも散見された。この良好な市場環境にあっても、流通は値上げ転嫁が進まず、粗利の低下に悩まされていた。	季節要因もあるだろうが、荷動きは期待値以下であったと言えそうだ。市場には一服感が漂い、需給タイト感は薄れている。これには地域、品種で差異はあるだろうが、全般的には可もなく不可もない状況となっている。そのなかにあってメーカーは一貫して値上げ指向を堅持し、更なる値上げも俎上にある。流通はその対応に追われているが、値上げ転嫁は難航しており、粗利低下により先々の採算確保が難しくなることを懸念している。	需要は堅調に推移。建築、土木関連が動き出す時期ではあるが人手不足、運送問題の深刻化などで、工事の出遅れが懸念される。さらにはファブ、ゼネコンが手一杯の工事量を抱えているため、期待したほど荷は動かないかもしれない。だが、需要、価格動向の落ち込みは考えづらく、緩やかな上昇基調を辿ると思われる。危惧されるのはメーカー値上げの趨勢が定かでなく流通は到達点の見えないまま、転嫁に追われていることである。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流動調査１月結果によれは、在庫は前月比＋2.1%、前年比＋13.7%と双方で増加している。薄板３品在庫も１月末４１４万８千トンで前月比＋2.6%と増加。一方、販売は前年並みか、微増であり、市況も強含み基調である。一部にはメーカーから入荷が遅れがちとの声を聞くが、昨年末のタイト感は薄れている。今後、メーカー値上げの転嫁完遂のためには在庫過多の状況は避けたいところであり、販売見合いの在庫を堅持する姿勢で臨むことになろう。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）メーカーの相次ぐ値上げ分の価格転嫁は、多くの品種で積み残しがある状況の中、さらなる値上げを表明する品種やメーカーがあり、我々流通各社は今後厳しい局面を迎える可能性がある。自動車、建機等製造業向けは好調だが、関西圏の製造業の需要にバラツキがあり、全体にまで届く景気対策が望まれる。建築関連では目立った大型物件は少なく、通常であれば年度末を控え、公共土木工事も動きが活発になるが、今年は例年になく小口物件中心で盛り上がりに欠けている。来期は、仮需の反動も薄れてきて、実需見合いの動きに戻っていくことを期待したい。

（愛知）年末の仮需的な先行発注のあおりを受けて、２月は季節要因も含めてかなり落ち込むと予想していた。鋼板類に販売減少がみられるが、全体感としては予想よりも販売が好調と言える。鋼板類の落ち込みは、厚中板の販売減が響いていて、仮需、先行発注の反動減か、当地区の主要自動車生産が減少したことなどが要因として考えられる。建築は材料の高騰による鉄骨小型案件の予算の見直しによる工期遅れ、入札不調、工事中止と懸念材料はあるが、大型、中型案件が４月以降控えており、現状で空きがでることはあるが、不安感はない。工作機械や建機は相変わらず順調に推移している。